

城南第三営業部

【2021年4月18日号】

国産材製品商況

4月に入り、代替需要が加速し、全国的に品不足が広がってきた。輸入材の入荷減少が顕著になってきたことや、大雪で工事が遅れていた北陸や東北の現場が雪解けで動いてきたことが要因と見られる。品不足を背景に製品価格も全面高の様相で、特に関東エリアは、工場や市場が驚くほど急騰している。杉KD柱・間柱105ミ製品は、関東以外はおおむね5万5000〜6万円だが、関東では6万5000〜7万円と一段高い水準を相場に、スポットでは8万円の高値も見られる。丸太の出材は順調で、工場はフル生産に入っているが、注文の急増に追い付かず、新規客の注文には応じられない工場が増えている。

関東中心に品不足

2X4 LVL 集成材・CLT

杉スタッド材に先高観

国産LVLも値上げ

国産材調達を強化

松大径材に150万円(m³)

製品は並材の不足が深刻化

ウッドピア市売協・開設20周年記念市

ウッドピア市売協同組合(三重県松阪市、中川浩之理事長)は7日、「開設20周年記念市」を開催し、4億882万円を売り上げた。内訳は、素材が販売材積6699立方分で売上高1億6922万円、製品が同1890立方分で同2億3960万円。素材、製品ともに18周年記念市の販売材積、売上高を上回る盛況な市売となった(19周年記事は新型コロナウイルス感染症拡大で中止)。



素材と製品で4億882万円を売り上げた

と4日中自は同1方3同1000円高。製品(平均単価12万円)は、市た。並材については不足が深刻化しているため、価格は入荷の都度提示している。ただ、実需以上の値上がりや指摘する声も聞かれるので冷静に対応したい」と話している。中川理事長は「浜間屋各社がそろいのマスクを作成し、市売に臨んだ。伐り旬の最後で素材不足も手強い、周年市にふさわしい結果が出た。今後も新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しながら市売を継続したい」と話していた。

新聞報道にもありますように、当市場は米松材の確保に努めております。今回の城南第三営業部は、当市場も製品が極度に不足しておりまして、製品のご案内を差し控えさせていただきました。

製品不足で受注制限や生産調整

樹種、単価、納期の変更を嘆願

関西プレカット協議会

関西プレカット協議会(佐藤原二会長)は12日、大阪市内で4月例会を開き、現状の木材製品不足の深刻化とそれに伴う価格高騰の影響により、多くのプレカット工場で受注制限や生産調整を実施するなど、5月以降の稼働率も20〜40%減になる見込みを示した。「顧客には樹種や単価、納期の変更をお願いしている。また、現状の外材不足の深刻化が分かる資料を配り、意識を変えてもらうようにしている(京都府内の工場)」という。同協議会メンバーの「欧州材の間柱、柱(集角)、ロシア産野縁等」状では製品在庫が極端各工場では、年初から(成管柱)、梁(集成平)の供給量が減少し、現に不足している。

第3次ウッドショックの波紋

国産材・国内

押寄せる代替需要、供給余力なし

全国で品不足と急騰、丸太も上昇

産地価格は船連続の上昇

チリ産ラジアタ松製材品

国内流通もコスト転嫁へ

株式会社 山形城南木材市場

第三営業部担当:柴崎・木村

〒990-2307 山形市表蔵王60番地の1

TEL.023-688-2200 FAX.023-688-2012

Email: jonan@mmy.ne.jp